



# 5月幼稚園だより

令和8年5月1日  
千代田区立番町幼稚園  
園長 美越 英宣



## 新しい春 新しい出会い

副園長 荒木 久子



(番町幼稚園HP)

生き生きとした緑が目まぶしく、戸外に出ると花や植物の香りがふわりと心地よく漂う季節になりました。今年とりわけ園庭の夏ミカンの花が見事で、甘い香りも芳しく、通るたび近くにいる子どもや教職員を探して「いい匂いね」「ほら、あそこに咲いているよ」と声をかけずにはいられない番町の庭です。待っていたかのようにアゲハチョウが優雅に舞い、今年も初夏の訪れを知らせてくれています。

よく見ると、レモンの葉には、アオムシになる前の小さなクロムシが懸命に葉を食べています。毎年巡る自然の営みですが、飛んでくるチョウも、卵から孵る幼虫も、同じものは一つとしてありません。その年に新しく生まれた、かけがえのない命です。見付けたときの喜びも、生長の過程も、サナギからチョウへと変わる不思議さも、大空へ飛び立つ瞬間の感動も、決して見慣れることはなく、毎年新鮮な期待と感謝に満ちています。

それは、幼稚園という場の営みにもよく似ています。毎年新しい園児を迎え、子どもたちは一つずつ進級し、しかし同じ成長や同じ姿は誰一人としてありません。新しい出会いに感謝し、日々の成長を支え、驚き、感動し、そして、巣立った後もどうか元気にたくましく育っていくことを心から願いながら日々の教育活動を営み成長を支え見守る——そんな日々が、今年も始まりました。

さて、今年の番町幼稚園の「新しい春」「新しい生活」「新しい出会い」の一端をご紹介します。



「はい、どうぞ」

3歳児もも組は、21名の新入園児を迎えにぎやかにスタートしました。幼稚園も、保育室も、教師も、全てが初めてです。ダンゴムシを手にとり「こちょこちょってした！」と驚きながらもにかむ笑顔、砂場で作ったご馳走と共に精いっぱい気持ちを「どうぞ」と何度も運んでくれる健気な姿に、思わず頬が緩みます。これから子どもたちがさらに安心して、自分らしさを発揮できる充実した時間が動き出します。

4歳児さくら組は、3名の新入園児を迎え17名でのスタートです。もも組の終わり頃から「もうすぐさくら組になる」と聞いてはいたものの、実際に保育室が変わり、担任が変わり、もも組には新しい子どもたちが遊んでいる様子を目にして、進級を“実感”している子どもたちです。初めて乗れるようになったスクーターをぎこちなくこぎながら「さくら組になったから乗れるよ～、嬉しい！」と歌うように話す姿は、まさに“実感”そのものです。



こいのぼりの下で

5歳児うめ組は、2名の新入園児を迎え23名でのスタートとなりました。ついこの間まで過ごしていたさくら組の保育室の前を悠然と通り過ぎ、堂々とした足取りで2階へ上がっていく頼もしい後ろ姿には、年長児としての誇りがにじみます。ペアのもも組さんのお世話、当番活動、グループでの相談など、年長ならではの役割に取り組む場面では、子どもたち自身も「新たな自分」と出会っています。新たな環境の中でこれまでにない一面を次々と見せてくれて見どころあふれるうめ組です。



始業式で一人ずつ新しい名札贈呈式

こうした幼稚園での子どもたちの姿は、園のホームページで随時ご紹介しています。どうぞ時折のぞいていただき、子どもたちのいきいきとした日常を感じていただければ幸いです。